

令和7年度PPA評議員会・総会 Q&A

NO	質問	回答
1	各地方で開催されている地区懇談会は、地方の保護者にとって有意義な機会だと思うが、予算が多いと感じる。実行性の確認として、参加予定数と実際の参加人数を教えてください。	地区懇談会は、全国の保護者の皆様と直接意見交換を行う大切な機会として、毎年47都道府県を中心に全40会場で開催しています。地区によって参加人数に差はありますが、多いところでは50名以上の参加があります。開催にあたっては会場費・交通費等の出張に係る費用を含めた予算を計上しており、すべての地域に公平な機会を設けるためのものです。地域の皆様の声を把握し、今後の運営に反映するために必要な経費と考えています。 (参考) 令和7年度参加保護者数：1,214名
2	地区懇談会の費用が全体予算の約4分の1を占めており、決算額も相応にかかっているようですが、予算を組む際に、全国40カ所で開催する場合、各地区にはどの程度の人員を派遣しているのか教えてください。	地区によって開催形態や規模が異なります。複数の地区をまとめて開催する場合もあり、小規模な地区で教員2名又は1名・職員1名の計2名～3名程度、大規模な地区では教員・職員を合わせて最大10名程度派遣することもあります。参加者数や会場規模に応じて、効率的かつ効果的に運営できるよう、人員配置を柔軟に調整しています。
3	価格高騰の影響で食費が上がっている中、全学生に5,000円分の食券を配布していただき、大変ありがたく思います。この取り組みにPPAは関わっているのでしょうか。	この取り組みは、大学・共済会・同窓会の3者による出資で実施したものです。PPAにつきましては、こうした突発的な支出については、総会での承認を経てからでないと拠出できない仕組みとなっております。そのため、今回はPPAからの支出は含まれておりません。
4	福利厚生担当事業の中に「教職員サークル活動」とありますが、4つのサークルとは具体的にどのようなものがあるのか教えてください。	現在活動しているのは、ゴルフ同好会、Intelligence Photo Club (写真クラブ)、アスレチッククラブ、ボウリング部の4サークルです。
5	援助活動について、学生や学外から好評だったもの、あるいは評価が分かれ、令和7年度に向けて見直しが必要と考えたものがあれば、どのように検討されたのか教えてください。	援助活動では、「学生教育指導援助」と「奨学支援援助」を中心に実施しております。「学生教育指導援助」は学科単位での講演会やワークショップなど、学外講師を招いた学びの機会の提供を行っており、昨年度よりも活動が活発化しており令和7年度にはさらに活性化が見込まれます。「奨学支援援助」では、海外学会発表やコンテスト出場など、顕著な成果を挙げた学生への支援を行いました。 いずれの活動もおおむね好評を得ており、特に改善が必要とされた点はございませんが、今後も活動状況を注視し、学生ニーズや社会情勢に応じた見直しを検討してまいります。
6	前年度の地区懇談会の総評を、当年度の事業報告書に添付していただきたいと思います。また、教職員サークルの運営状況や一覧も掲載していただけるとありがたいです。	貴重なご提案をありがとうございます。前年度の地区懇談会の総評や、教職員サークルの活動一覧については、事業報告作成時に掲載を工夫させていただきます。

7	<p>研究活動援助費について、PPAから大学院生にも出張援助を行っているが、大学院生は金額が固定されており、国内3万円・海外5万円を上限に、1人1年間につき1回しか申請できない。このような制限を設けている理由を教えてください。学会参加は学生にとって大変有意義な経験であり、今後そうした機会を制限しないよう、PPAとして見直しを検討してほしい。</p>	<p>研究活動援助費については、学部学生にはPPAの規程に基づき援助を行っています。大学院生については、教学センターが実施している「大学院生学会発表等の旅費援助」に対し、PPAから一定額を拠出しており、これに大学からの支援および同窓会からの補助を併せて支援しています。</p> <p>援助の回数は、大学院生が1年度につき1回、学部学生が在学中（4年間）で2回までと定めています。また、援助額の上限は国内3万円・海外5万円で、学部・大学院とも共通の基準を設けています。</p> <p>物価や渡航費の高騰など、社会情勢の変化も踏まえ、現在の制度については見直しの必要性を感じております。ただし、全体予算とのバランスを考慮しながらの検討が必要なため、今後も慎重に議論を進めてまいります。</p>
8	<p>昨年もしましたが、議案書の収支予算（案）の箇所に前年度の決算額も併記していただきたいと思います。ページを戻って確認しなければならず、不便に感じます。</p>	<p>昨年いただいたご意見をもとに、PPA内で検討いたしました。一般的に議案書においては、予算案の横に前年度の決算額を併記することは行っておりませんが、形式上の整合性の観点から、記載を控えさせていただきました。その代わりとして、今年度はページ構成を工夫し、収支予算（案）を17ページに配置しております。これにより、7ページの収支決算書を折り返しでご参照いただくことで、前年度との対照ができるようになっております。ご確認の際は、あわせてご覧いただければ幸いです。</p>
9	<p>保養所の利用状況表で「2,792名」とありますが、これは延べ人数なのか、それとも特定の方が複数回利用しているのか教えてください。</p> <p>また、大学の学生数は約1万人であり、研究活動援助に比べて、保養所関連の支出が大きいのにも見えますが、その点についてはいかがでしょうか。</p>	<p>ご指摘の2,792名は延べ人数であり、同一の方が複数回利用している場合も含まれています。なお、利用は1人あたり年度内で最大3回までと定めています。また、保養所は学生だけでなく、保護者の皆様や教職員も利用対象となっているため、対象人数は学生数約1万人を大きく上回ります。</p> <p>研究活動援助との比較については、研究活動そのものは大学による支援が中心であり、PPAはあくまでその不足分を補う「援助的な支出」が主となっています。一方、保養所事業は福利厚生として直接的にPPAが運営・支援している事業であり、支出構造が異なります。</p>
10	<p>決算書の「学生行事援助費」「行事参加指導援助費」「学生進路支援費」について、予算額がすべて執行された形になっており、増減の状況がわかりません。今年度も同額の予算が組まれています。内容の検証は行っているのでしょうか。</p>	<p>各費目の執行状況については、大学から提出される報告書により把握しており、予算の適正な執行を確認しています。</p> <p>また、これらの費目はPPAからの支援分に加え、大学側でも同様の支援支出を行っており、実際の総支出はPPA決算書に示されている額を上回っています。</p> <p>PPAからの支援分については、いずれも目的に沿って全額が活用されています。</p>
11	<p>一部の支援をより手厚くする必要もあるとは思いますが、現在PPAの収入はおおむね一定で推移しており、残額を翌年度に繰り越して事業計画を組まれている状況かと思えます。</p> <p>このままでは継続的な運営が難しくなる可能性もあり、物価高騰が続く中では、より慎重な予算編成が必要と感じます。</p> <p>今年度も慎重なご判断のもとで予算を立てていただいたと思いますが、次年度以降も持続可能性を意識した形で、子どもたちへの支援の在り方を検討していただきたいと思えます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。ご指摘のとおり、現在のPPAの収入はほぼ固定的であり、今後の物価上昇などを踏まえると、持続可能な運営のために慎重な予算編成が必要であると認識しております。</p> <p>単年度での収支にとどまらず、中長期的な視点からの見直しも含め、今後の事業計画のあり方を検討してまいります。</p>

14	<p>ポータルサイトは、学校と保護者・学生が正確な情報を共有するための重要な仕組みだと認識しています。</p> <p>しかし、実際には授業に出席しているにもかかわらず、出席状況が「×」と表示されることがあるなど、情報の正確性に疑問を感じる場面があります。</p> <p>保護者としては、正しい情報を確実に得られるよう、学校において運用方法をより明確に検討していただきたいと思います。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。ポータルサイトの情報の正確性は非常に重要な点であると認識しております。</p> <p>本件につきましては、PPAから大学側に状況を伝え、改善に努めていただけるよう働きかけてまいります。</p>
15	<p>本学を卒業した方の中で、千葉工業大学で教授や准教授等として活躍されている方はいらっしゃいますか。</p>	<p>本学教員に卒業生はいます。年度によって多少の変動はありますが、多くの卒業生が教育・研究の分野で成果を上げています。</p>